

新型「コロナウイルス」 収束を願って

長東西学区社会福祉協議会
顧問 村竹正則

令和1年12月中国武漢で新型コロナウイルス(新型肺炎)が発生し、日本人滞在者は、令和2年1月29日帰国しました。この未知のコロナウイルス感染は、瞬く間に全世界へと広まりました。令和2年6月18日現在、全世界死者数44万人を超えました。日本は、952人の死者を出し、一刻も早い感染予防のためのワクチン開発が待たれています。

日本の歴史を振り返ると、「古事記」や「日本書記」に10代崇神(すいじん)天皇の時代に人口の約半分が疫病で死んだと記されています。疫病を撲滅する術を持たない時代、これは「たたり」だと信じ、神の力に頼り疫病を止めようとしたと記されています。

45代聖武天皇(奈良時代)時代になると中国(唐)へ遣唐使を派遣し、日本との文化交流を盛んにしました。また、朝鮮半島にも使節を派遣し、それら使節団から疫病(天然痘)が日本に持ち込まれ、総人口の25%

35%が亡くなりました。その上地震や飢饉にも苦しめられた聖武天皇は、741年全国に国分寺や国分尼寺を建て、仏教を広め、仏の力を借りて国を治めようと考えました。さらに745年には、奈良の大仏造りにとりかかり、7年後の752年には、中国から高僧を招いて魂を入れる儀式「開眼供養会」を盛大に行い、国内外にお披露目しました。仏の力を借り疫病の収束をはかり、世の乱れをおさえようとしたとも言われています。

日本に伝わる主な疫病は

- ①天然痘 ②結核 ③麻疹(はしか) ④コレラ ⑤赤痢 ⑥梅毒 ⑦インフルエンザ ⑧新型コロナウイルス等が挙げられます。医療技術が未熟な時代には、神や仏に頼り神社に詣でお祈りがなされました。明治に入りワクチンの開発が進み、疫病感染が少なくなりました。

医療が発達している今日とは言え、爆発的な感染や未知の感染症には、対応できなくなり、多くの死者が出ます。一人ひとりが、対策を考え感染拡大を防ぐことが大切です。

日本の厚生労働省から「三つの蜜(さんみつ)」が示されました。

- 1、「密閉」空間：換気につとめる
- 2、「密集」場所：イベントの自粛
- 3、「密接」場面：大声を出さない

※不用不急の外出自粛する

戦後、食料事情が悪い中、子ども達が、生の梅やナツメなどを食べ赤痢に感染して、人里離れた隔離棟に運ばれ完治せず亡くなるのを目にしました。

わたしたちの体には、子どものころ感染予防のため、ワクチン接種がなされ、その痕跡が今も腕に勲章として残っています。

地域の学校や各種団体も諸行事を控え感染防止に努めて参りました。懸念されます第二波を皆さんと一緒に封じ込めたいものです。



「みんなで育てる」



校長 文 弘
小 学 校
西 本
長 岡

今年四月、長東西小学校に赴任して参りました。よろしくお願いいたします。

四月の始業式で子供たちに二つのお願いをしました。一つめは「人を大切にする」、二つめは「正しい行いをする」ということです。

家庭生活・地域生活・学校生活と、子供たちはいろいろな場面において他者と共に過ごしています。けつして一人ではなく、常に誰かと一緒に：言い換えれば、互いに支え合っ

大切に育てる。また、何か言動を起す前には慎重に判断し、人として恥

新代表者のご紹介

長東西地区

青少年健全育成連絡協議会

会長 北崎 俊司

平成17年度より15年の長きにわた

この会は通称「青少協」とよばれ

今後とも皆様の協力をお願いいた

たちだけのことではなく、私たち大

長東西学区防犯組合

組合長 田中 義彦

永年にわたりご尽力いただきました

長東西学区はお陰様で大変に落ち

今後とも、私達が安全で安心して

暦の上では秋とはいえ、厳しい暑さが続いています。長東西学区の皆様方におかれましては、益々ご健勝のこととご拝察いたします。

平素は、当社協の諸行事にご支援ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、例年どおり今年もご長寿の祝賀「令和2年度長東西学区敬老会」を予定し、準備を進めていきましたが、2月に発生しました「新型コロナウイルス感染症」が依然として収束の兆しが見えない状況を受け、ご長寿の方々、応援参加の多くの子ども達、お手伝いの関係者の皆さんの健康、安全を考慮して止むなくこの行事の開催中止を決めました。

開催を楽しみにして頂いていた皆様方には、誠に申し訳ありません。長東西の皆様方の「新型コロナウイルス感染症」への地道な改善対応が功を奏し、早く元のように元気に生活に戻り、地域活動ができる事を願って報告いたします。

令和2年度長東西学区敬老会は、中止となりました。

「介護予防教室」

祇園・長東地域包括支援センター

センター長 井 上 大 輔



長東西学区社会福祉協議会と祇園・長東地域包括支援センターは6月25日いきいきサロンでお薬についての講義を開催。講師は「ぎおんプラス薬局」管理薬剤師の岡村氏。

今回のテーマは「薬剤管理、感染予防について」。高齢者の多くは何かの病気を抱えておられ病院で

薬をもらっています。病気や体調を整えるために不可欠なお薬も間違った認識で服用すると反対に体調を崩してしまうこともあります。

講義では、先ずは意外と知らない薬局の活用術を教えていただきました。薬局は薬をもらうだけのところではなく、実はお薬のこと以外にも健康相談が出来るそうです。

そのため普段から自分のことをよく知っておいてくれるかかりつけ薬局やかかりつけ薬剤師がいるといると安心であるとの事でした。

また、薬と食べ物との関係では、グレープフルーツと飲み合わせてはいけない薬やアルコールと一緒に薬を飲まない方が良い理由など薬の効果を正常に保つための注意点をわかりやすく教えてもらいました。

その後免疫力を高めるためにはバランスの良い食事を摂ることやしつかりと睡眠をとる事、体温を上げるための食事などが大切であることを教わりました。

最後に地域包括センター職員から感染予防のためのマスク着脱の注意点、新しい生活様式のポイントなど

の説明がありました。

普段は40〜50人入る長東西集会所ホールに11人の参加者でした。少しさみしい気持ちもありましたが、新

新しくなった「谷集会所」



しい生活様式にのっとった感染予防対策は今後もしばらく続けていきながら、介護予防の大切さも広めていきたいと思えます。

「谷町内会」の皆さんと協議を重ねてきました。

なお、今回の改修では、玄関回りに手すりを設置する等、高齢者の方や身体の不自由な方が利用し易いように環境を改善しました。

また、地域の皆さんが主体的にコミュニティの輪を広げていただくための掲示板を正面玄関横に設置しました。

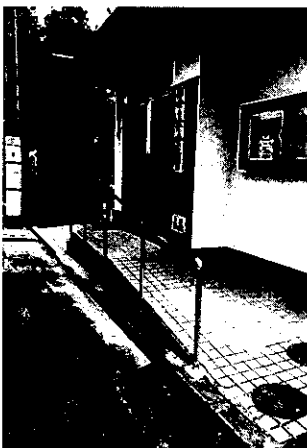
現状、「いきいきサロン」や「ヨガ教室」等で利用いただいています。この改修を機に新規の利用者が増えることを期待しています。

大師ヶ丘町内会

会長 山城 武之

この夏、私たちの町内にある谷集会所が綺麗になりました。

このたびの改修目的は、経年劣化による屋根・外壁の補修工事でありましたが、2014年に発生した「8・20土砂災害」以降緊急避難場所に指定されたことを踏まえて、二年前から本施設の共同利用者である



わがまち防災マップを全戸配布しました

長東西学区自主防災会連合会会長 櫻井俊男

平成27年度からの懸案であった「わがまち防災マップ」がようやく完成し、本年6月、学区内の全戸に配布いたしました。表面が学区全体、裏面が拡大して各町内会です。

皆様におかれましては、いつも見える冷蔵庫や壁等に貼って、日頃から避難経路を確認し、避難の心構えをしておいてください。また、地図上の自宅位置に○印をつけ、特別警戒区域(レッドゾーン)にないか、警

戒区域(イエローゾーン)にないか、あるいは色がついてない区域(ホワイトゾーン)にあるか、ご確認ください。

豪雨の際、市役所から警戒レベル3以上の警告が出た場合、山すそのレッドゾーンの人、或はイエローゾーンでもレッドゾーンの近くの人は、ただちに長東西小学校または最寄りの自主防災会が指定した一時避難場所(谷集会所、第一祇園ヶ丘自治会センター、第二祇園ヶ丘掘込車庫、フロレンス会議室)のいずれかに避難してください。また、山本川沿いの浸水危険区域のレッドゾーンは最大3メートルの水が押し寄せますので二階でも危険です。最寄りの一時避難場所に移動してください。



一般に健常者は「警戒レベル4避難勧告」で避難開始ですが、長東西では高齢者が多く道も狭いことから、レベル3「避難準備・高齢者等避難」から全員避難開始して頂くようお願いしています。尚、急傾斜(がけ崩れ)危険区域は、大地震で崩落する恐れがありますので、日

ごろから警戒しておいてください。イエローゾーンの人には、土砂災害・浸水地区とも無理して外には出ず、自宅の二階か高い所で山と反対側の部屋に避難し、それでも危険と感じれば避難場所に行きましょう。ホワイトゾーンの家は安全とされていますが、危険を感じる場合は自宅二階に上がりましょう。

わがまち防災マップは、平成26年8月20日、安佐南区を襲った豪雨災害を教訓に、広島市が、学区ごとに住民が主体となって危険な場所を洗い出してマップを作成し、市が印刷する方法で推進してきたものです。

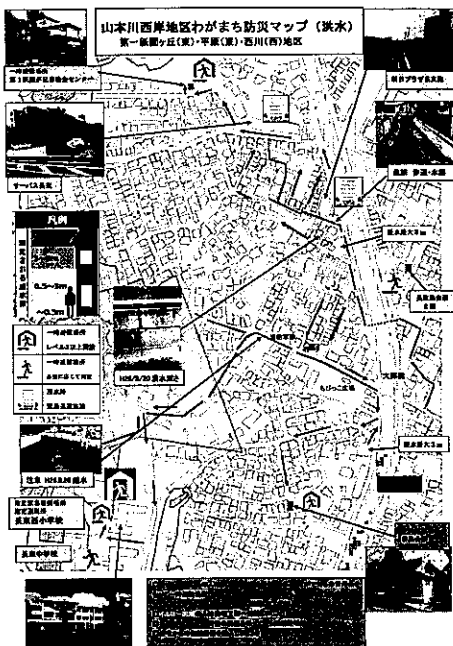
た、長東西学区の場合は平成28年度に土石流区域の見直し測量がなされ、二年遅れてしまいました。

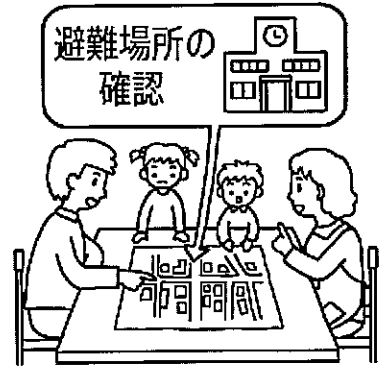
この間、平成27年の関東では鬼怒川大洪水が発生し、この時の2日間

総雨量763mmを、太田川流域に当てはめると、堤防決壊により安佐北区以南では深さ30mを超える大洪水が想定される、と発表されました。この場合、避難場所はほとんどなくなり住民からも強い反発があつて、市は平成28年に想定2日間総雨量396mmで太田川決壊を想定したハザードマップを作成しました。

今回のわがまち防災マップは後者の想定雨量を用いています。但し、大師ヶ丘のみは想定雨量では浸水しませんので、鬼怒川並みの雨量での浸水を参考にマップを作成しました。

また、各町内の危険場所の写真を添付しましたので確認しておいてください。写真は、下山区マップで指摘していた危険個所で、今年7月実際に土石流が発生した例です。今年度は、新型コロナウイルス間

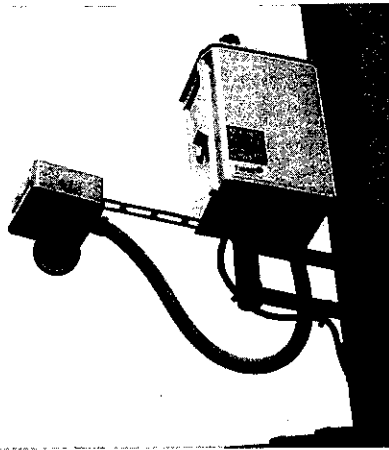




防災ライブカメラを設置しました

題で新しい生活様式での避難となりますが、市や自主防災会ではアルコール消毒や二密防止を考えた避難場所運営を行っていますので、レンドゾーンの方は、警戒レベル3以上が発令されたら必ず一時避難場所に避難されるようお勧め致します。

平成26年8月20日の豪雨災害では、竜王団地の権地川支川（通称竜王川）上流で土石流が発生し、幸い死傷者は出ませんでした。数十軒の家の一階に土石流が流入し、道路



や田圃にも土砂が流入するという甚大な被害が発生しました。

長東西学区社会福祉協議会では、竜王川に砂防ダム建設を陳情しましたがなかなか進展しません。

さらに平成30年7月6日、西日本豪雨災害が発生しこれを機に、広島市は危険な溪流に防災ライブカメラを設置する事業を始めました。

早速、自主防災会ではこれに応募したところ採択され、すでに被害が発生、電源が取りやすい、という観点から、昨年6月、竜王神社前に設置し試験運転を開始しました。

しかし、電波状況が悪くて画像が転送されないことが多く、今年度に入って電波の通る場所を探して検討しました。

その結果、長東西四丁目のメイン道路と権地川支川がクロスする橋の

地点を選定し、家主さんのご協力を得てカメラを設置しました。この地点は六年前の災害時、この小さな橋の下に大きな岩や流木が詰まり、土石流がこの家の窓から一階に流入しさらに道路を駆け下って付近の家屋、田圃に被害を与えた場所です。

ライブカメラは90秒に一回静止画を発信するもので、昼間はカラー、夜間は赤外線による白黒画像が見られます。

画像は、広島市ホームページに公開され、パソコンやスマートフォンで見ることができます。

検索方法は、「広島市総合トップページ」↓防災情報サイト↓防災まちづくり事業↓防災ライブカメラ↓防災ライブカメラについて↓カメラ一覧表の05001-gonchigawaのくを押して再度05001-gonchigawaを選んで「表示」です。

9枚から100枚表示が選べ、左上が一番新しい画像で、見たい画面をダブルクリックすると拡大表示されます。

写真はライブカメラの画像で、下が上流、上が下流で一番上に橋の下が黒く映っています。これら画像から、水量と橋下の詰まり状況を目視することが出来ます。この橋下が詰まったときは、上流の竜王神社付近ではすでに大土石流が発生している

はずで、詰まる前の水量増加を注視しておく必要があります。

本年、7月6日の豪雨の際は、U字溝を超えて茶色の水が流れている画像が写され心配しました。防災委員が見に行ったところ、案の定、竜王神社の裏山に土石流が発生したらしく普段川のない所から赤水が竜王川に流れ込んでいました。

この防災ライブカメラは、竜王団地、平原地区のみならず長東西学区の土石災害危険情報観測基地として活用して行きたいと考えています。



避難行動要支援者支援事業

この事業は、車椅子など自力歩行困難で家族の助けが得られず、土砂災害警戒区域や浸水区域にお住いの災害弱者（要支援者）に、災害時に地域の人々が避難場所への誘導をお手伝いするという制度です。

平成27年度までは、要支援者一人を予め決められた近所の元気な人が責任もって避難させる、という一対一の仕組みでした。

この制度では支援者個人の責任があまりにも大きく、東日本大震災では、責任感の強い何人もの消防団員が、自らの危険性を顧みず要支援者を避難させようとする中で、津波に飲み込まれ命を落とされました。

その反省に立って、平成28年度から、一対一ではなく一対複数で支援するという制度に変わりました。支援する側は、消防団、自主防災会、自

治会、民生・児童委員、社会福祉協

議会、地域包括支援センター、障

者基幹相談支援センターの7団体に

拡大されました。以来、長東西学区

では、消防団は災害場所に出動して

参加できないため、社会福祉協議会

傘下の自治会、町内会、自主防災会

連合会、民生委員の3団体が合同で

支援に当たっています。

他方、要支援者は、自宅にお住ま

いで、市に登録された要介護3以上

の高齢者、身体障害手帳一・二級保

持者、肢体不自由三級以上の方、知的

障害療育手帳A保持者、難病患者、精神障害者福祉手帳一級保持者の

いずれかの人を市が毎年コン

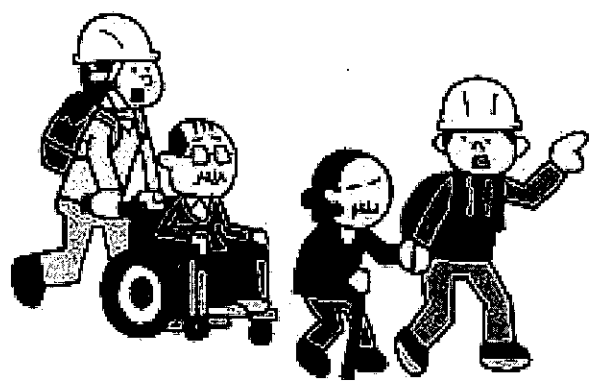
ピューターで抽出し、今年度新たな

方々には地域支援を要望するか否か

をアンケートし、支援要望のあつた

方々の名簿が前記3団体に一部ずつ

配布されます。令和2年度の長東西



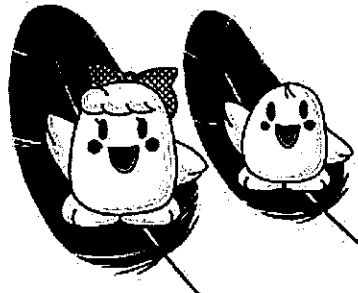
別訪問して健康状態を聞き取り、土砂災害特別警戒区域と最大3m浸水地域（レッドゾーン）の要支援者の災害時避難方法を話し合います。土砂災害警戒区域と0.5m浸水地域（イエローゾーン）の方には、外に出ず自宅二階か高い所に避難をお奨めし、ホワイトゾーンの方には自宅待機をお願いします。

幸い長東西学区では家族支援可能な方が多く、又、施設に入られたり転居されたりして、地域支援要望者は4名です。このうちレッドゾーンにお住まいで、自主防災役員や自治会役員による地域支援必要者はわずか2名ですが、ここ四年間大きな災害の発生がなく、役員一同ほっとし

ています。このほかにコンピューターに乗らない支援要望者にも、自主防災会役員が緊密の連絡を取って避難支援をしている場合もあります。

避難場所として学区自主防災会指定の谷集会所、第一祇園ヶ丘自治会センターなどもあります。地域支援の方は車で役員が、保健室のある長東西小学校、今年度からは、山本の養護老人ホーム「春日野園」、三滝の介護老人保健施設「三滝ひまわり」を加えた3か所いずれかにお連れすることになりました。

赤い羽根共同募金



10月1日▶12月31日